



いふだより

第3号

このたよりは、尾張旭市内の小中学生の子をもつご家庭や、
教職員のみなさん、地域の方に向けて発行しています。

スクールソーシャルワーカーのご紹介

スクールソーシャルワーカー（SSWr）とは、社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家です。そして、これらの活動をスクールソーシャルワーク（SSW）と呼びます。

（文部科学省『生徒指導提要』平成22年3月より）

【本市SSWrの紹介】

- 水野みち代先生（旭中学区）
- 酒井多輝子先生（東中学区）
- 中村 豪志先生（西中学区）
- 原則、週1回の各校巡回
- 教育相談や家庭訪問を実施
- ※他の曜日にも相談に応じる

困っている子ども

- ・不登校
- ・暴力行為や非行
- ・愛着障がい
- ・いじめ
- ・児童虐待
- ・学習意欲の低下など

SSWrが関わると…

福祉的な視点

- ・家庭生活の課題
- ・親子関係の課題
- ・養育態度の課題
- ・本人の発育の課題
- ・人間関係の歪み
- ・学校・地域風土の課題
- ・貧困問題 など

直接的支援・間接的支援(SSWrの役割)

- ・困っている子どもについて、学校や家庭を訪問して、本人や保護者と相談したり、関係機関へつないだり、問題の解決や改善を図る。
- ・学校や関係機関と一緒にケース会議を行い、連携・協働しながら支援体制を構築する。
- ・保護者や教職員に教育相談や経済的支援のサービスなどの情報提供をする。
- ・教職員等にSSWの研修をする。 など

今年度、SSWrが各中学校区に1人ずつ配置され、3人体制になりました。保護者や地域の皆様にもSSWrの存在を知っていただきたいと思います。SSWrの働きかけにより、学校・家庭・地域・関係諸機関をつなぎながら、困っている子どもの現象面だけでなく、その背景にある根本的な原因の解消ができればと考えます。

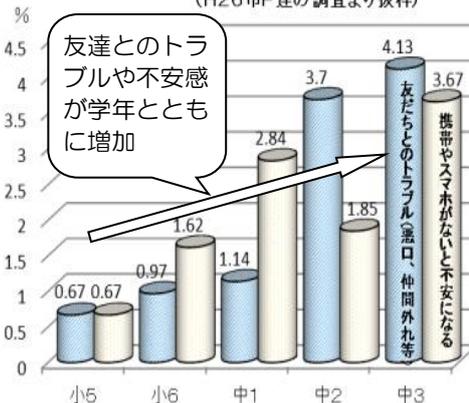
昨年度のSSW教員研修



夏休み前に「ネット」について 考えてみましょう

インターネット接続端末の多様化と普及により、中学生だけでなく、小学生でもインターネットを利用することが当たり前になりました。しかし、右のグラフのように、便利さの中にいじめや不登校の要因が潜んでいることもあります。市内や全国の小中学生の事例の一部を紹介し、ネットに関わるいじめについて考えます。

携帯やスマホでのトラブルや困ったことの内容
(H26市P連の調査より抜粋)



いじめとネット

ネットでのいじめは、現実でのいじめからネットいじめに発展するパターンと、ネットでのコミュニケーショントラブル（問題発言、既読スルー、未読放置等）などからネットいじめになるパターンがあります。また、ネットいじめには、①ネット上での会話を無視する「無視」②ネット上でのグループから外す「仲間はずれ」③集団で悪口や誹謗中傷を書き込む「集団いじめ」④見られたくない写真や動画を共有する「画像・動画共有」などのパターンがあります。全国では様々なネットいじめが存在します。その一例を紹介します。

全国での事例 SNSやプロフなどでのいじめ（参考資料 平成26年度総務省調査研究より）

小学6年生のA君は、冗談で友達B君の悪口をSNSに記入しました。B君には、見られないように設定していましたが、ほかの友達C君からB君に伝わりました。A君の書き込みに激怒したB君は、自分の日記にきつい言葉でA君への文句を書き込みました。それは、SNS上の友達にあつという間に広まりました。落ち込んでしまったA君は、学校に行けなくなりました。

尾張旭市での事例

尾張旭市でも数件ネットに関わるいじめが確認されています。SNSや通信ゲームを使って、友達の悪口や個人情報を書き込み、いじめにつながってしまった事例が報告されています。

原因 ネットいじめが深刻化する一因を紹介します。

- ① 文字での伝えにくさ＝文字だけではうまく気持ちが伝わらず、誤解を招き、いじめにつながる。
- ② 匿名性＝発信者を特定しづらいという心理から、普段言わないようなひどいことを書き込み、相手を傷つける。
- ③ 閉鎖性＝周りから見られないという安心感から、いじめが起きやすく、周りからも発見しづらい。
- ④ 拡散性＝コピー＆ペーストで瞬時に多人数に伝達できるため、いじめが素早く拡大し、深刻化しやすい。

対策 見えにくいネットいじめへの予防法や対処法について紹介します。

【予防として】

- ・ ネット上でも仲間はずれや悪口をしないなど、日頃から思いやりの気持ちやネットモラルを育てておく。
- ・ トラブルにあったら、一人で抱え込まずに親や先生に相談するという信頼関係を築いておく。
- ・ 悪質な書き込みは犯罪になる可能性があるなど、発信した内容には責任が伴うことを教える。

【ネットいじめに遭遇してしまった場合の対処として】

- ・ 証拠を保存し、学校や関係機関に相談するとともに、一旦ネットから離れる。

ネットに関する市内の取り組みについて



〈おわりあさひネットルール5か条〉

- ① 思いやりの気持ちを忘れない。（仲間はずれ、悪口などをしない）
- ② 夜9時以降は使用しない。
- ③ フィルタリング・迷惑メールブロックを必ずする。（勝手に解除しない）
- ④ ネットで知り合った人とは、直接会わない。
- ⑤ トラブル・被害にあったら、親や先生に相談する。

夏休み前に、ご家庭でもネットの使い方について、ぜひ話し合ってみてください。